

WRI 事務所より

ここに、ニュースなどでおしらせ済みですが、かきかえねてもらう一度……(私信も参加します)

2月8日(水) 午後3時 反原子力市民講座より
 へ反原発・くらしを問い直す視察からー講師 樋田助氏 会場カンパ30円。ところへ環状線森ノ宮下車南西歩いて4分ー大阪労働金庫本店講堂。聞き逃して悔いをおこすな。

2月10日(金) 午後6時 国労会館。会費200円。
 ー日本へのウランウム輸出を阻止し、大きな連帯の手いを展開しているJ・フオークさん歓迎の意味をこめて、ぜひ多数参加を。(表記ごら参照下さい)

2月11日(土) 午後2時 2.11反靖国反天皇制関西集会。ところへ環状線若原橋下車3分解放センターホール。講演ー現実と虚構ー井上光晴氏。参加費(資料共)500円)
 最大の虚構ともいっべき靖国・天皇制が何故・私たちの心に力を発揮するのにか!

ウリンドは無料です。希望の方は名前表記の封筒5枚を送付用としてお送り下さい。

2月14日(火) 午後6時 へ單筆費拒否のEの確定申告のすすめと講習の会。ところへ解放センター3F別室 東京・拒否の会代表大野道夫さんが来阪いままでの経緯にもとづく話と具体的やり方の指導をスライドや手引きパンフと共に指導します。(上映)
 (確定申告用紙は会場でお渡しします。給料者は、源泉徴収票を持参下さい)

2月16日 鈴木国男さん産後2周年。
 大阪拘置所抗議。amの集会(須野公園) amのデモと大拘抗議行動。amの集会ー解放センター6F。(国語誌誌報告ほか)
 2月17日 原英連懇談会ー日消連関西グループ事務所(電3258)

2月19日 神戸・非暴力直接行動の会(略称ND) 右ワド 原発帯出者の被曝労働のスライド上映その他。
 直接行動や冊号、3月刊行。予約募集中!

戦争抵抗者インター日本部(略ウリ) 大阪府あべの区旭町2-10-2

オーストラリア M A U M

(ウランニウム採鉱と輸出に反対する運動)

議長ジョージオーク氏を迎えて話をきく会

ところ 国労公館(環状線「大湊」駅、北すぐ)

とき 2月10日 台6 公席費 二〇〇円

M A U M

オーストラリアの原発燃料ウランニウム採鉱をやめさせ、その輸出を阻止し、核のない未来実現の目的に活動する環境運動と運動者の市民団体グループの連合体である。(ウランニウム採鉱に反対する団体は約90あると云う)

76年11月メルボルンで始めたM A U Mの三千名の行進は、77年4月には二万人。8月8日と9月22日には二万人以上のものとなり、鉄道労組が、もしウランニウムの輸送を発見すれば、直ちに24時間ストをうつといつた措置や政府の向うにケネディウランニウム輸出停止モトリアムといった決定に大きな力を与えてきた。

日本は、オーストラリアからウランニウム輸入契約を結んでおり、日本の公社は現地に買付け権利を置いて、いろいろの工作・暗躍を行つてゐる。

○一九七〇年北朝鮮に発見された大規模なウランニウム鉱床は、オーストラリア原住民保護区をふくみ、その開発がひきおこす原住民社会と動植物相に破壊的打撃を与えるものだった。つまり日本をも含む北半球工業諸国の原子力発電や核兵器がオーストラリア原住民社会の壊滅の上に成り立つという提題は、日本の原発運動にとつて、決して他人事でないことを示している。

○クインズランド州メアリアキヤスリン鉱山周辺でくわが政府や会社から出張者と対峙したとき、同鉱山ウランニウムは日本の四国電力と輸出契約がされているが、その四国電力は伊方の原発裁判で住民運動の反対をうけている。もし伊方の人が出て、ここで手をにぎり合うことができれば、という連絡が日本へ来た、が私たちの非力と立おくれは、それを実現させえなかつた。

J。ブオークさんは30才。1969年あのベトナム反戦時代 Moush 大学の自治会代表いまメルボルン工科大学教官。16ヶ月前M A U M 議長となつた。